

学校教育目標	<b>「みんなと のびる」</b> <b>～自ら学び 関わり 高まりあう 児童の育成～</b>	経営理念	【ミッション】生涯にわたって主体的に学び、多様な他者と協働し高まりあおうとする人間力を育成する (ビジョン) 1 児童一人一人が、自己存在感を醸成し、共感の人間関係の中で「豊かな心」を育むことができる温かい学校 2 児童一人一人が、学ぶ楽しさを実感し、みんなと伸びる中で「確かな学力」、「たくましい体」を育む学校 3 教職員一人一人が、児童に対する愛情と教育に対する使命感を持ち、専門性を発揮しながら対応できる組織的な学校 4 「開かれた教育課程」のもと、家庭や地域と連携し、伝統の継承と創造を実現する学校
--------	--	------	---

評価計画					自己評価					改善方策						
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	評価基準				達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	改善方策
							4	3	2	1	10月	2月				
豊かな心(徳)	1	多様な他者を尊重し、協働できる児童の育成	いじめ、不登校、問題行動のない学校・学年・学級づくり 東広島スタンダードの定着	学校・学年・学級経営の充実(情報の共有化と組織的な対応) 縦割り班活動の充実 無言掃除、無言移動、無言集合の徹底 ノーチャイムによる学校生活 キラキラカードの活用 心のサポーター、スクールカウンセラーの活用	「3つの無言(今年度重点目標『無言移動』ができた)項目での、児童の肯定的評価を80%以上にする。	80%	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	89.2%	111%	4	「3つの無言『無言移動』ができた」項目での、児童の肯定的評価は約89%で、目標値を上回った。各学級で教室移動や下校時の移動の際、児童へ無言移動の声掛けを引き続き行っていきたい。	教職員間で、担任が児童の先頭に立ち指導することなどの意識統一を図り、児童が落ち着いて行動できるようにさせる。また、月ごとの生活目標とも関連させ、3つの無言の目標について全体指導、学級指導を行っている。	
					「よく挨拶をする」項目での、保護者の肯定的評価を70%以上にする。	70%	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	64%	91%	2	「よく挨拶をする」項目での、保護者の肯定的評価は64%で目標値を下回った。児童アンケートでの挨拶に関する肯定的評価は、90%と大きな差がある。自分では挨拶をしているつもりだが、相手に伝わっていないことが多いと考えられる。また、校内で教師に対して挨拶をする児童は増えたものの、地域や来客に対しての挨拶が課題である。	児童会主体で学校オリジナルキャラクターの作成を行い、そのキャラクターを缶バッジにする。安全・パロール履きと連携し、校内だけでなく、地域でもよく挨拶をする児童に配布することで意欲的に挨拶に取り組み児童の増加を図る。	
確かな学力(知)	2	主体的、対話的に深く学ぶ児童の育成	個別最適な学びの実現 協働的な学びの実現 基礎学力の向上	ユニバーサルデザインの視点による授業づくり(場、ルール等) 授業研究を中心とした校内研修等による教師の授業力の向上(指導方法の工夫と改善) GIGAスクール構想の推進(IOTの活用による学びの充実) 探究的な学習や体験活動の充実 自学コンクールの実施	「なぜだろう、やってみたいと思う」項目での、児童の肯定的評価を90%以上にする。	90%	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	86.7%	96%	3	「なぜだろう、やってみたいと思う」の肯定的評価は約87%で、目標値を下回った。児童が悪きつけられるような問いや自分ごととして考えられるような課題を、単元や1単位時間に設定することが許容であると考える。	授業のユニバーサルデザイン化の第1段階である授業に「参加」させるための手立てを講じる。授業の導入においては、児童が考えたくなるような問いや資料を提示し、そこから児童の言葉のあてを設定するという流れを意識する。	
				「〇〇科(研究教科等)の授業が楽しい、よくわかる」項目での、児童の肯定的評価を85%以上にする。	85%	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	92%	108%	3	「(研究教科等)の授業が楽しい、よくわかる」の肯定的評価は、目標値を上回った。児童が「わかる、できる」授業づくりに向けた授業のユニバーサルデザイン化等の教師の手立てが有効であったと考える。今後も研究教科について研修を深めるとともに、他教科等にも成果を広げられるよう実践の交流等を図っていきたい。	各教科等で実践し、有効であったユニバーサルデザインに関する手立てを整理し、全体研修で交流する。 ICT機器の活用について情報担当者や連携し、Googleフォーム等を効果的に活用する機会を設定したり、活用方法の情報提供を積極的に行う。		
				国、算、社、理の中から任意の1教科について、単元末テストの学級平均点を85点以上にする。	85点	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	86点	101%	3	任意の1教科の単元末テストの学級平均点は、86点で、概ね目標を達成することができた。授業研究を中心とした校内研修により、各教科の教材研究を深めることができた成果だと考える。	各単元でつけたい力を明確にし、学年部で教材研究を進めていく。授業における「あて」と「まめ」の割合を確保し、児童が自分ごとと「め」を意図して思考力や表現力を伸ばす。各学年の課題となっている教科についても、同様に行い、単元末テストまでに必ず習熟を図り、つまづきを把握し、指導する。		
たくましい体(体)	3	健康でたくましい心と体の育成	望ましい生活習慣の確立 体力、運動能力の向上	健康教育の充実 体育科授業の充実 体育的行事の充実(感染症対策等の周知、徹底)	「運動やスポーツに取り組んでいる」項目での、児童の肯定的評価を85%以上にする。	85%	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	81.2	96%	3	体力テストの運動習慣等調査の結果、「運動やスポーツに取り組んでいる」項目での児童の肯定的評価は81.2%で、目標値を下回った。今年度は、6月からの酷暑もあり、運動しにくい状況があったこと、ご家庭でのコロナ禍の影響で、運動不足の状況が今年度も引き続き影響していることも考えられる。朝会での取り組みやすい体力づくり運動を中心に運動意欲の向上に努め、体育科の常行改善により、運動能力の向上につなげる。	朝会で、取り組みやすい体力づくり運動を紹介し実施して、運動意欲の向上に努める。体育科では授業改善により、運動能力の向上につなげる。常時活動として主に縄跳び運動に継続して取り組み、児童が主体的に運動を行う意欲を高める。それが週あたりの運動時間の増加と跳躍能力を中心とした運動能力の向上へつながるよう努める。	
				「立ち幅跳び」、「反復横跳び」において、体力テストにおける得点平均が、前年度の当該学年を0.1ポイント以上上回る。	101%	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	103%	102%	3	体力テストの結果、得点平均が「立ち幅跳び」はR5はR4を4.5cm上回っている。「反復横跳び」は1.3回上回っていた。昨年度に比較して女子の記録の向上が目立った。男子は、前年度を下回る学年が半数で、男子の運動能力の向上という課題が明らかになった。	男子児童の課題分析を中心に、児童の運動能力向上のため、体育科授業における跳躍運動の指導法工夫改善を図るとともに、朝会や啓発掲示を通じて、「縄跳び」等の運動を中心に、児童の興味関心を高め、主体的に運動に取り組み、更なる運動能力の向上に努める。		
地域とともにある学校づくり	4	保護者や地域に開かれた信頼される学校づくり	保護者、地域と連携した「共育」の推進	学校運営協議会制度の推進(地域団体との交流、学校支援ボランティアの活用) 学校教育活動に関する情報発信の充実	「学校は、保護者や地域と連携を密にしている」項目での肯定的評価を90%以上にする。	90%	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	90%	100%	3	「家庭や地域との連携」については、肯定的評価が90%、否定的な意見は4%であった。後も、保護者や地域からの相談や問い合わせに丁寧に対応していきたい。また、CS推進員や地域学校協働活動推進員との連携を深め、児童と地域との関わりがある学習活動を深めていきたい。	これまでと同様に生徒指導対応についての研修を継続して実施するとともに、事実を基にした丁寧な対応に努める。また、総合的な学習の時間を中心に、地域の特徴や歴史について学ぶ機会を設定する。	
			「働き方改革(業務改善)」の推進	業務改善の推進による時間の確保(日課表の見直し、教職員の協働体制の確立) 積極的な年休取得奨励(年間行事の見直し、一斉閉庁日の設定)	「学校の教育活動や児童の様子がよくわかる」項目での肯定的評価を90%以上にする。	90%	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	94%	104%	3	情報発信については、94%の保護者から肯定的評価があった。しかし、4%の保護者が否定的評価をしていることから、HPや学校だより等のより一層の充実を図っていききたい。	引き続き、「学校だより」や「学年だより」の内容の充実を図り、教育活動に対する保護者の関心を高めていきたい。	
			所属校は、働きやすい職場である」項目での肯定的評価を90%以上にする。	0%	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	12%	88%	2	勤務時間外在校時間月平均60時間以上(年平均)の教職員を0%にする。	勤務時間外在校時間月平均60時間以上(9月末現在)の教職員は12%であった。年休取得日数も昨年度より増加した。年間行事の見直しや定期的な学年部会を設定したことは、計画的な業務遂行に繋がった。	各月の学校行事等について、早い段階で共通認識を行い、計画的な業務遂行を目指すとともに、年休等を取引しやすくなる。		
					所属校は、働きやすい職場である」項目での肯定的評価を90%以上にする。	90%	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	100%	111%	4	学生サポートやスクールサポートスタッフの配置は、教材研究や生徒指導の時間を確保することに繋がりが、大きな成果が見られる。また、週休なしの日(後期よりのびる日と設定)や毎週水曜日にロング昼休憩を設定したことは、教員が児童と関わる時間の確保につながった。	引き続き、学生サポートやスクールサポートスタッフの配置を生かし、教職員の業務推進のスムーズ化を図る。日課表の見直しにより今年度から取り組んでいるロング昼休憩を有効に活用する。	